

モデルプログラム検証 カリキュラム（実施計画 細案）

実施団体名 御殿場市教育委員会

養成・○研修 / ○基礎・○専門・支援員（該当するものに○）

★参照したモデルプログラムNO.（報告書 pp. 207-244） 下線：内容・項目（pp. 72-76）

日時・場所	2018年7月6日(金) 時間:14:20~16:20 (120分) 於:御殿場市立朝日小学校		
実施団体・機関	御殿場市教育委員会		
研修・授業名	平成30年度日本語指導が必要な児童生徒支援研修会		
講師	齋藤ひろみ氏 (東京学芸大学 教授)		
受講者	<ul style="list-style-type: none"> ・人数:45名 ・受講者の立場:御殿場朝日小教員22名、御殿場市外国人担当教員14名、御殿場市教育委員会指導主事1名、御殿場市指導教室適応教室指導員3名 ・年齢層:20代(7)名 30-40代(19)名 50代(12)名 60歳以上(3)名 ・その他:県義務教育課指導班班長、浜松市教育委員会指導主事、県国際交流協会職員 静岡教育事務所日本語コーディネーター 		
演題・テーマ☆	外国にルーツを持つ子供たちの <u>在籍学級での支援</u> と保護者への対応 ☆研修内容（報告書 pp. 72-76）を反映		
到達目標	御殿場市内小中学校の外国人児童生徒および保護者への理解を深め、適切な対応ができるようにする		
活動展開 (120分)	★	形態	留意点
導入: ・授業参観についての振り返り(20分)	⑳	講義	・参観した先生方からの感想 ・参観した授業に関して子供の 実態と支援、指導についてコ メント(<u>在籍学級における外 国人児童の学習参加のため の支援</u> :どういう点に注意して 授業をしていたか)
	⑰		↓ 関連付ける
展開 1: ・ <u>異文化適応</u> と学習参加(45分) ・文化背景による不適応 (<u>異文化適応のプロセス</u>) ・学習参加のためのことばの力 ・日本語の力と発達上の課題 (<u>第二言語習得のプロセス、発達障害</u>) ・子どもの作文から (<u>言語習得の課題</u> を把握)	⑫	講義	・在籍学級での様子から外国人 児童生徒が抱える課題につい て気づく ・ <u>文化間移動</u> と学びの分節化/ 連続性の保障を強調 ・ <u>生活言語能力と学習言語能 力の理解</u> を促す
	⑲		
	⑩		
	⑩	活動	・意識的な指導の必要性
	⑰	(話し合 い)	
			参考資料 指導案 ・『外国人児童生徒 のための支援ガイド ブック～ライフコー スによりそって～』 齋藤ひろみ著 凡人社 ・子どもの作文

<p>休憩(10分)</p> <p>展開 2:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者からの課題について検討(35分) ・保護者への対応 (<u>保護者とのコミュニケーション、保護者の教育への関心と日本語力</u>) ・支援者との連携 ・問題行動をする子供への対応 (<u>文化間移動と親子関係</u>) <p>まとめ:振り返り(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修で参考になったこと ・明日、自分の支援を教育にどう生かすか 	<p>⑤</p> <p>⑧</p> <p>⑮</p>	<p>活動 (話し合 い)</p>	<p>・課題について提示 ↓ ・課題を一つ選びグループで話し合う→発表 ↓ ・保護者、児童生徒に対応する際、保護者、児童生徒の立場になって考える ・そのためには<u>校内の指導体制</u>をどのように構築したらよいか (教員、保護者、支援員の連携)</p> <p>・実際に生かせそうなことを一つあげてもらおう(<u>外国人児童生徒教育の経験を教師のキャリア</u>としてどう生かすか、考えながら)</p>	<p>御殿場市教育委員会へ提出の課題リスト</p> <p>内省シート</p>
<p>備考：13:00～13:15 受付</p> <p>13:15～14:00 外国人児童在籍学級（2クラス）を参観（御殿場朝日小教員以外）</p> <p>14:00～14:20 会議室へ移動、休憩、アンケート（研修前）記入</p> <p>14:20～16:20 研修</p> <p>16:20～16:30 アンケート（研修後）記入</p>				